

サポセン mail

No.191.2019.8.15発行

〈発行元〉 特定非営利活動法人 緑区子どもサポートセンター
千葉市緑区誉田町 2-21-684-101 TEL&FAX 043-377-8490
E-MAIL:kids-support-midori@coffee.ocn.ne.jp
URL:http://saposen.konjiki.jp/

子どもってすごいね！



全員ができるようになりました！

9月4日（日）長かった梅雨が明け、35度を超える暑い暑い夏の日千葉大のダブルダッチサークル「AX」から5名のお兄さん姉さんたちが来てくれました。あいさん、たつきくん、とうこさん、みおさん、るみさんの5名です。爽やかに優しいお姉さんたちです。

初めにお姉さんたちのパフォーマンスを見せてもらいました。二重の輪を跳びながら、だんだんスピードをあげたり、二人一緒に跳んだり。子どもたちはやや茫然として見えています。こんなことができるのだろうか、少々不安な様子が表情に表れていました。



まずは準備運動です。アキレス腱をのばしたり、足首を十分に回したりしてからいよいよ順番に跳んでみました。

高学年グループと低学年グループに分かれて挑戦です。二重の環にはいるコツは、手前の環を追いかけるようにして入るのがコツだそうです。



ダブルダッチの経験があるれいちゃんや運動神経のいいこうすけくん、はなちゃんは初めから躊躇することなく輪に入れて軽やかに跳べるようになりました。こうすけくんはジャンプする高さも高く、向きを変えてクルクル回りながら跳んだりケンケンして跳んだりいろいろなことに挑戦していました。

(*へ続く)

プロと一緒に楽しく体験！

7月24日（水）土気駅と誉田駅から待ち合わせをして、みんなで同じ電車に乗り込みました。「私電車に乗るの2回目だよ！」「私は6回目。」普段は車で移動することが多いのか、なんだかみんなわくわくしながら電車に乗り込みました。今回の体験ひろばはこまが3名、アクションが1名、ダンスが2名、アフリカンパーカッションが3名あそびの広場が親子1組とどこかに固まることなく自分のやりたいものをそれぞれ申し込んだようです。きぼーるでは太鼓など大きな音の出るものが禁止のため、内容によってきぼーる組と文化センター組に分かれて電車を降りました。

こま・けん玉

今年も講師は「こまのたけちゃん」です。たけちゃんは「全国こま選手権」で4年連続で優勝しているそうで、今年の決勝で相手に勝った『イヤリング』と言う技を見せてくれました。たけちゃんが言うようにちょっと地味だけど可愛いらしい技でした。たけちゃんが中国ゴマを天井高く投げあげたり、刀の上をこまが登っていったりするいろいろのパフォーマンスを観せると、子どもたちからは「お～！」「すげ～！」などと歓声が上がっていました。



たけちゃんの凄い所はその指導のうまさです。全然こまが回せなかった子も不思議なくらいたけちゃんが教えると、すっと回せるようになります。こまを投げる時のひじののばし方や角度、ひざの感じなどちょっとしたコツを教えてもらうだけで、どの子もすぐに回せるようになっていました。普通に回せたらコマ検定10級、「犬の散歩」紐で回っているコマを移動させると9級、的の大皿の中で回せると8級、コマに紐を巻きつけて持ち上げると7級、りこちゃん、ことりちゃん、みちかちゃんはみるみる上手になっていました。

殺陣・アクション



アクション俳優の石田武さん、宮崎重信さんからはじめに右ストレート・フック・左ボディ・右キックと基本の動きを教わり、練習しました。一人で参加したさきちゃんは最前列の真ん中でキレのある動きをしていました。基本の動きができるようになると、今度はからだを斜めにして左右によける受け身の練習です。それも習得すると攻撃と受け身を二人一組になってたがいに練習しました。

昨年は1時間以上のアクションの連続に疲れてしまう子の様子が見られましたが、今年はみんな最後までよく動いていました。一人ひとりに石田さんが相手をしてくれたり、刀を使っての殺陣も体験しました。



あそびのひろば

あそびのひろばには大量にちぎった新聞紙のプールや段ボールや大量の紙コップが用意されていて自由に遊ぶことができました。お母さんと参加したあかりちゃんは自分の背より高い紙コップの

城壁を積み上げていました。最後には積み上げた紙コップを躊躇なく倒していました。
(記 安藤)

ダンス

ダンスの先生、まーちゃん、ちーちゃんと裸足の子ども達だけで始めました。まずは皆が仲良くなるためにジャンケン列車で一列になり、そのまま輪になって一人ずつ自己紹介をしました。学年や年齢と好きな食べ物を和やかだけど恥ずかしそうに発表しました。かやちゃんは「お肉」金川りこちゃんは「いかのおすし」が好きだと言いました。



ダンスの曲目は「アラジン」。砂漠の中で風を避けながら前に進むパントマイムの練習から皆素晴らしい演技力を発揮します。その後はボックスなどの基本的な動きに色々と手の動きなどを加えていきながら少しずつ組み立てていきます。

子どもたち全員笑顔で激しい踊りをどんどん覚えていました。皆がどんどん上手になるので先生方の指導力に驚きました。この演目の締めめのポーズは一人一人が思うアラジンのポーズで終わります。思い思いの形を体で表現することを躊躇することなく笑顔でできることに、とても感心しました。

アフリカンパーカッション

講師のBBモフランさんたちは、楽器もおしゃべりもとてもリズムカルです。子どもたちはそれぞれ自己紹介をし、モフランさんたちがギター、ピアノ、パーカッションでライオンキングなどの曲目でミニコンサートをしてくれました。



その後は太鼓の大きい音や小さい音に合わせて手拍子でリズムをとります。そして、左右に別れて違うリズムで手拍子をしながら、左は「ま」と言い、右は「め」と言いながら不思議なリズムを奏でます。「マメ」とは、アフリカの言葉で「お母さん」という意味だそうです。先生は、日本中いろんな所へ行くが、千葉の人たちは比較的节奏感が良いと言っていました。

それから、個々に太鼓を叩きます。「ジャンベ」というヤギの革でできたものと、「ドゥンドゥンガ」という牛の革でできた太鼓を3~4人ずつ叩く3チームに分かれました。

はなちゃん、かのんちゃんは「小さい豚肉チーム」で「ジャンベ」を選びました。前のチームがやっていたことと違うことをやると聞くと、かのんちゃんはびっくりしていましたが、二人ともとても楽しそうに真剣にジャンベを叩いていました。

あいかちゃんも「ジャンベ」を選び、「大きい豚肉チーム」で知らないお友達と頑張りました。先生の動きをよく見ながら、とても丁寧に叩いていました。最初は「難しい」と言っていたあいかちゃんも終わりの頃には笑顔で思いっきり楽しんでいました。

太鼓のリズムに合わせて「ぶたにく！たべたいな！」と大きな声でみんなで叫びました。最後はお互いのチームの発表をし、パーカッションの先生方がアフリカの曲を演奏して歌ってくれました。

どちらにも共通するのは、陽気な楽しい先生方に接するうちに、心豊かに体が動くようになり、子どもたちはそのときを楽しむ姿勢になるということだと感じました。(記 長管)

(*)初めは半数以上が跳べない状態でしたが、20分ほどたつといつの間にか全員が跳べるようになっていました。特に初めなかなか輪に入るタイミングがとれなかったかのんちゃんもずっと入れるようになり、本当に嬉しそうにお姉さんとハイタッチをしていました。子どもが跳びやすいようにずっと回すひもの位置をずらしてくれたり、優しく励ましてくれるお姉さんたちのおかげでみんな次々に飛べるようになっていきました。



低学年チームは二人で跳んだり、おんぶして跳んだり、八の字に跳んだりいろんなことに挑戦し、高学年チームは黒板に表を書き5人で何回跳べるかやってみました。各自2回ずつ跳びましたが、みちかちゃんとりこちゃんが100回跳び合計で842回跳んでいま

5	28	160
37	35	100
67	37	67
9	20	10
70	100	140
200	217	417
合計		

した。1時間半跳び続けたら疲れてしまうんじゃないかという心配をよそに、あっという間に終わりの時間になってしまいました。優しいお姉さんたちと一緒に大満足の1時間半でした。
(記 安藤)

